

科目名	福祉栄養学実習 I					開講 キャンパス	神 埼
担当者	山 崎 美津代						
開講年次	3	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	管理栄養士・栄養士には、加齢に伴う身体機能の変化に対する理解とそれに応じた栄養ケアのための技術が必要とされている。福祉栄養学実習 I では、高齢期の献立作成のポイントを押さえた献立を実際に作成し、チャレンジ高齢セミナーでの実習を通して高齢者とのかわりについても実践的に学ぶ						
授業の 到達目標	1) 高齢者の身体的特性を理解することができる 2) 高齢者の食嗜好や食生活を理解することができる 3) 高齢者に適した食事を考えることができる 4) 高齢者が好む食事作りができる 5) 高齢者とコミュニケーションがとれる						
学習方法	講義およびグループごとの献立計画や実習を通して学習する						
テキスト及 び参考書等	適宜プリントを配布する。講義中に参考書を紹介する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○	○					10
授業態度			◎	◎			30
受講者の発表							
授業への参加度			◎				60
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	オリエンテーション (高齢期の特性)						
第 2 週	高齢期の献立の立て方						
第 3 週	高齢期の献立作成、アンケート作成						
第 4 週	献立発表、献立調整						
第 5 週	献立の試作 (調理実習)						
第 6 週	試作献立の調整						
第 7 週	高齢者との接し方						
第 8 週	チャレンジ幸齢セミナー①の企画・準備・役割分担						
第 9 週	チャレンジ幸齢セミナー①の準備・最終確認						
第 10 週	チャレンジ幸齢セミナー①における高齢者との関わり						
第 11 週	チャレンジ幸齢セミナー②の企画・準備・役割分担						
第 12 週	チャレンジ幸齢セミナー②の準備・最終確認						
第 13 週	チャレンジ幸齢セミナー②における高齢者との関わり						
第 14 週	アンケート集計・発表						
第 15 週	反省・まとめ						
第 16 週							
備考	本実習を受講する者は、福祉栄養学実習 II を受講すること。 事前学習 (授業外) : 関連科目の復習を行い理解しておく。 事後学習 (授業外) : ノートや資料のまとめ、整理を十分に行うこと。						